



和田英作「朝陽富士」大正6年（通期）



児島虎次郎「なさけの庭」明治40年（通期）

「皇室と宮崎」

宮内庁三の丸尚蔵館収蔵作品から

2021.10.9（土） — 12.5（日）

前期 | 10.9（土）—11.3（水）祝 | 後期 | 11.5（金）—12.5（日）

観覧
無料

会場 宮崎県立美術館 1階 展示室3

前期と後期で、展示内容が変わります

開館時間 10:00-18:00（入室は17:30まで）

休館日 毎週月曜日、11月4日（土）・24日（土）

主催 宮崎県教育委員会、宮崎県立美術館、宮内庁、文化庁

特別協力 紡ぐプロジェクト、読売新聞社、MRT宮崎放送



宮崎県立美術館HP



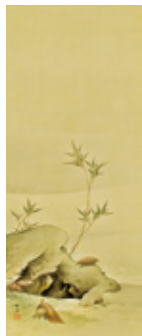
宮崎県立美術館
MIYAZAKI PREFECTURAL ART MUSEUM

〒880-0031 宮崎市船塚3丁目210番地
TEL 0985-20-3792 FAX 0985-20-3796

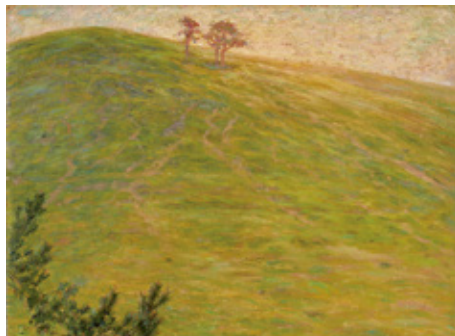
「皇室と宮崎」

～ 宮内庁三の丸尚蔵館収蔵作品から ～

宮内庁三の丸尚蔵館は、皇居東御苑内において、皇室に代々受け継がれた絵画・書・工芸品、皇室からの御寄贈、御遺贈品など約9,800点の美術品等を収蔵管理し、公開している施設です。その収蔵品の中から、国文祭・芸文祭を契機に開催する全国初の展覧会として、皇室と各地域が何かしらの縁で結ばれてきたことに注目し、それぞれの地域から皇室に献上された品々、その地域出身あるいは活動した作家の品々など、優美な皇室御慶事の品々や宮崎県ゆかりの作品などを特別展示いたします。



①



②



③



④



⑤



⑥

本展では、宮内庁三の丸尚蔵館が所有する、和田英作や横山大観ら、人格・技術ともに優れた美術工芸家として任命された帝室技芸員による美術品、日本画家・野田九浦きゅうほによる、秩父宮殿下が宮崎県内各地を巡られた様子を描いた絵巻、近代皇室の御慶事に際し伝統的な工芸技術により製作されたボンボニエール※など、貴重な美術工芸品を鑑賞できる希少な機会です。約30点の収蔵品を前・後期日程で入れ替えて紹介いたします。皇室により守られてきた日本の美術工芸品の粋をお楽しみください。

※ ボンボニエール：ボンボンのような砂糖菓子を入れる容器を表すフランス語で、日本の皇室が「お遣い物」にされてきた小さなギフト・ボックスのこと。

- ① 橋本雅邦「寿老人鶴亀図」明治33年(後期) ② 中沢弘光「風景」明治45年(通期)
③ 高村光雲「文使」明治33年(前期) ④ 十三代 沈寿官「菊桐透彫香炉」大正6年(通期)
⑤ 《瑞彩》のうち野田九浦「高千穂」大正13年(前期) ⑥ 菊花形双鶴付ボンボニエール 昭和34年(前期)

